

## 新学習指導要領にもとづく年間指導計画案〈地理的分野〉

(平成30年4月～移行措置期間)

作成：2018年3月 東京社会科教師塾(代表 宇野彰人) ※無断転載・二次使用を禁ずる。

この移行措置期間における年間指導計画は、新学習指導要領の項目を基に、「中学校学習指導要領解説 社会編」を参考にして現行の教科書(帝国書院「社会科 中学生の地理」)の内容を生かしながら、東京社会科教師塾が全国の中学校社会科教師の年間指導計画作成の参考となるよう作成した試案である。

### 【作成にあたって】

#### (1) 移行措置への対応について

- ①「領域の範囲や変化とその特色」について、新学習指導要領の規定に配慮した(【小学校及び中学校の学習指導要領等に関する移行措置並びに移行期間中における学習指導要領等について(通知)平成29年7月7日 文科省】による)。
- ②年間指導時数は、「平成31年度及び平成32年度の地理的分野及び歴史的分野の授業時数の配当について、新学習指導要領の規定により、授業時数を両分野に適切に配当する。」【小学校及び中学校の学習指導要領に関する移行措置並びに移行期間中における学習指導について(通知)平成29年7月7日 文科省】により、地理的分野は115単位時間(1学年=52時間、2学年=63時間)とした。また、歴史的分野と並行して学習するものとして作成した。

#### (2) 本資料における工夫について

本資料では、新学習指導要領の趣旨をふまえたうえで、以下のような工夫を行っている。

##### ①「A 世界と日本の地域構成 ②日本の地域構成」における内容上の工夫

「エ 本土・本島・離島」の項目を設定し、離島については人が住む島と無人島、本土・本島に近い島と遠い島等を扱い、様々な離島について理解させるようにした。「島国」の様々な島にあらためて注目させ、日本の地域構成を捉えさせ、そのなかで国境の島を認識させることが地理的分野の学習として適切であると考えた。なお、「離島の生活」について各地方の学習のなかで扱うようにする。(ここでは「⑦関東地方 ウ」のなかで伊豆諸島や小笠原諸島の人々の生活を扱う。)

##### ②「C 日本の様々な地域」における構成の工夫

「(1)地域調査の手法」と「(4)地域の在り方」は、「(3)日本の諸地域」のうち学校所在地を含む地方(本案では「関東地方」)と結びつけて扱う。【学習指導要領 第2章 第2節 1(3) 内容の取扱い】による。

##### ③「C 日本の様々な地域 (3)日本の諸地域 ⑥北海道地方」における内容上の工夫

学習指導要領で示された考察の仕方のうち「⑤その他の事象を中核とした考察の仕方」として「歴史的背景や開発の歴史を中核とした考察の仕方」を扱う。また、学習内容に「イ 地名に残る北海道のあゆみ」を設定した。これは、現行教科書 p.259⑧の資料図をもとにした学習にプラスして、「伊達」は伊達藩、「京極」は京極家、「新十津川」と奈良県の十津川との関連等を探究しながら北海道の移住と開発の歴史が見えてくることを意図した学習である。

##### ④「地理的分野の学習のまとめ」の設置

「C 日本の様々な地域」の最後に「地理的分野の学習のまとめ—日本とはどんな国か—」の項目を設定し、「C(2)日本の地域的特色と地域区分」や「C(3)日本の諸地域」で区分して系統的、地誌的に見てきた日本の地域的特色をまとめる学習ができるようにした。このことは、これまで観点や地方ごとの日本の地域的特色を理解できても日本をひとつの地域として国土認識に至る学習が必ずしも十分ではなかったのではないかという反省のもと、2020年の東京オリンピックを視野に、「グローバル化する国際会に主体的に生きる(中略)公民としての資質・能力の基礎」を育成するという社会科の目標の具現化、及び高等学校に必修科目として新設された「地理総合」へつなぐ学習として意図したものである。

年間指導計画案（平成30年～）移行措置期間

【1年】（配当時間52時間）

※下線部は【作成にあたって】「本資料における工夫」に該当

学期	月	単 元	学 習 内 容
1  (21)	4	<b>A 世界と日本の地域構成</b> （11） (1) 地域構成 ①世界の地域構成（6）	ア 地球儀と世界地図をながめて イ 大陸と海洋の分布 ウ 緯度と経度 エ 主な国々の名称と位置
	5	②日本の地域構成（5）	ア 我が国の国土の位置 イ 時差 ウ 領域の範囲と変化 エ <u>本土・本島・離島</u> オ 都道府県の名称と位置、都道府県庁所在地
	6	<b>B 世界の様々な地域</b> （41） (1) 世界各地の人の生活と環境（10）	ア 世界の様々な生活と環境 イ 暑い地域の暮らし ウ 乾燥した地域の暮らし エ 温暖な地域の暮らし オ 寒い地域の暮らし カ 高地の暮らし キ 世界各地の衣食住とその変化 ク 宗教と生活のかかわり
	7		
	9		ア アジア州の自然環境 イ 地域によって異なるアジアの農業や文化 ウ 経済発展を急速にとげた中国 エ 自立の道を歩む東南アジア オ 産業の発展が急速に進む南アジア カ 資源が豊富な西アジア・中央アジア
	10	(2) 世界の諸地域 ① アジア（6） ＜主題：人口の増加と居住環境の変化の課題＞	
	11	② ヨーロッパ（5） ＜主題：国家統合と文化の多様性の課題＞	ア ヨーロッパ州の自然環境 イ ヨーロッパ文化の共通性と多様性 ウ ヨーロッパ統合と人々の生活の変化 エ ヨーロッパの農業の今 オ 国境を超えて結びつく EU の工業
2  (31)	12	③ アフリカ（5） ＜主題：耕作地の砂漠化と経済支援の課題＞	ア アフリカ州の自然環境 イ アフリカの文化と歴史 ウ アフリカの産業と経済を支える輸出品 エ 自立をめざすアフリカの国々
		④ 北アメリカ（5） ＜主題：農業地域の分布と産業構造の変化の課題＞	ア 北アメリカ州の自然環境 イ 移民の歴史と多様な民族構成 ウ 大規模な農業と多様な農産物 エ 世界をリードする工業 オ 世界に広がるアメリカ合衆国の影響

	<p>⑤ 南アメリカ (5) &lt;主題：森林の伐採と開発の課題&gt;</p> <p>⑥ オセアニア (5) &lt;主題：多文化主義と貿易の課題 &gt;</p>	<p>ア 南アメリカ州の自然環境 イ 多様な民族と人々の生活 ウ 大規模化する農業と発展する工業 エ ブラジルにみる環境問題 オ 産業の発展と開発にともなう問題</p> <p>ア オセアニア州の自然環境 イ 移民の歴史と多文化社会への歩み ウ 海外と結びついたオセアニアの産業 エ 強まるアジアとの結びつき</p>
--	--	---

【第2学年】 配当時間（63時間）

学期	月	単 元	学 習 内 容
1	4	<b>C 日本の様々な地域</b> （63） ※(1)地域調査の手法は、「⑦関東地方と私たちの地域」と合わせて学習する。	
	5	<b>(2) 日本の地域的特色と地域区分</b> （9） ①自然環境からみた日本（3）	ア 日本の地形の特色 イ 日本の気候の特色 ウ 日本の自然災害と備え
	6	②人口からみた日本（2）  ③資源・エネルギーと産業からみた日本（2）	ア 日本の人口分布と過疎・過密 イ 少子高齢の現状と課題  ア 日本の資源・エネルギーと電力 イ 日本の産業とその変化
(24)	7	④交通・通信からみた日本（2）  <b>(3) 日本の諸地域</b> （54） ①九州地方（5） ＜自然環境を中核とした考察の仕方＞	ア 世界と結ぶ交通・通信 イ 国内を結ぶ交通・通信  ア 九州地方の自然環境 イ 自然とともにある九州の人々の生活 ウ 温暖な気候を生かした農業 エ 都市や工業の発展と自然環境 オ 南西諸島の自然環境と生活や産業
		②中国・四国地方（5） ＜交通や通信を中核とした考察の仕方＞ ＜人口や都市・村落を中核とした考察の仕方＞	ア 中国・四国地方の自然環境 イ 交通網の整備と人々の生活の変化 ウ 海外と結びついた瀬戸内の工業 エ 全国展開を進める農業 オ 観光客を呼び寄せる取り組み
	9	③近畿地方（5） ＜環境問題や環境保全を中核とした考察の仕方＞	ア 近畿地方の自然環境 イ 琵琶湖の水が支える京阪神大都市圏 ウ 臨海部の埋め立てと環境に配慮した工業 エ 古都奈良・京都と歴史的景観の保全 オ 環境に配慮した林業・漁業と保全活動

2 (29)	10	④中部地方（5） ＜産業を中核とした考察の仕方＞	ア 中部地方の自然環境 イ 輸送機械工業がさかんな東海 ウ 交通網が発達した東海の農業 エ 内陸にある中央高地の産業の移り変わり オ 雪とのかかわりが深い北陸の産業
	11	⑤東北地方（5） ＜伝統的な生活・文化を中核とした考察の仕方＞	ア 東北地方の自然環境 イ 寒い夏に対する稲作と畑作の努力 ウ 果樹栽培の発展と生活に根づいた漁業 エ 伝統文化を生かした観光業の発展 オ 発展する工業と生活の変化
	12	⑥北海道地方（5） ＜歴史的背景や開発の歴史を中核とした考察の仕方＞	ア 北海道の自然環境 イ 地名に残る北海道のあゆみ ウ 厳しい自然環境を克服した稲作の歴史 エ 大規模化してきた畑作や酪農、漁業 オ 歴史や北国の自然を生かした観光業
3 (10)		<p><u>⑦関東地方と私たちの地域（19）</u> （関東地方（5）＋地域調査の手法（9）＋地域の在り方（5）） <u>＜様々な観点からの考察：地域の見方・考え方のまとめ＞</u></p> <p>（冬季休業を利用して、カ～クの観察・調査、まとめ等の課題、あるいは「地理的分野の学習のまとめ」の予習の課題を出すことも考えられる）</p>	<p>ア <u>自然環境の観点からみた関東地方と私たちの地域(2)</u> イ <u>歴史的背景や開発の歴史の観点からみた関東地方と私たちの地域(2)</u> ウ <u>人口や都市・村落の観点からみた関東地方と私たちの地域（離島の生活を含む）(2)</u> エ <u>資源・エネルギーと産業の観点からみた関東地方と私たちの地域(2)</u> オ <u>交通や通信の観点からみた関東地方と私たちの地域(2)</u> カ <u>調べよう：私たちの地域の地図と様々な資料(2)</u> キ <u>調べよう：将来に残したい私たちの地域の特色(2)</u> ク <u>調べよう：改善したい私たちの地域(2)</u> ケ <u>考えよう：将来の私たちの地域(1)</u> コ <u>考えよう：私たちが地域の持続可能な発展のためにできること(1)</u> サ <u>発表しよう：私たちが調べたこと・考えたこと(1)</u></p>
	1		
	2	※(4)地域の在り方は、「⑦関東地方と私たちの地域」と合わせて学習する	
	3	◎ <u>地理的分野の学習のまとめ</u> <u>—日本とはどんな国か—</u> （5）	<p>ア <u>グループで分担して（「C(2) ①～④」の項目別、「C(3) ①～⑦」の各地方で学習した中核考察のテーマ別）日本全体をひとつの地域としてみた時の特色を見直そう</u> イ <u>調べたことを地図にまとめよう</u> ウ <u>まとめたことを発表し合おう</u></p>